

香取遺産

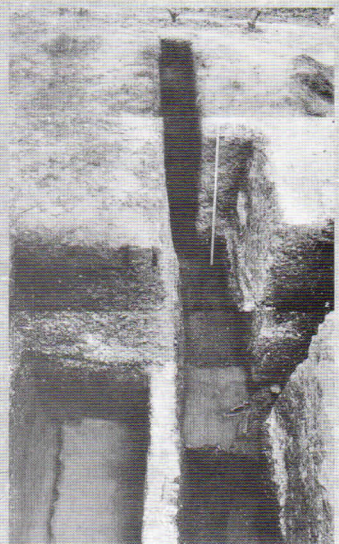
Vol.129

縄文時代早期の代表的貝塚
城ノ台貝塚
縄文時代の代表的貝塚
城ノ台貝塚
縄文時代の代表的貝塚
城ノ台貝塚

縄文時代早期の代表的貝塚
城ノ台貝塚



▲北貝塚出土土器
(昭和 24・25 年調査)



▲南貝塚 (平成 2 年調査)
中央下方に埋葬人骨

城ノ台貝塚は、木内字城ノ台地および虫幡字横畑にあります。標高44mの台地の南斜面と北斜面に貝層が形成され、それぞれ城ノ台南貝塚・城ノ台北貝塚と呼ばれています。明治37年に「桑畑の貝塚」として学会に紹介されて以降、多くの研究者によって発掘調査が行われてきました。

南貝塚は昭和14年と19年に東京大学人類学教室、平成元年と2年に千葉大学考古学研究室によって発掘調査されました。その結果、貝層は東西約15m・南北約20mの範囲で、縄文時代早期の中頃から後半(約6〜7千年前)の土器をはじめ、石器や貝殻製ナイフなどが出土しました。また、平成2年の調査では縄文早期の数少ない埋葬人骨も検出され、注目されました。

北貝塚は昭和24年と25年に吉田格氏、昭和63年に小見川町教育委員会、平成4年に香取郡市文化財センターによって発掘調査されました。貝層は東西約8m・南北約15mの範囲で、縄文時代早期の中頃(約7〜8千年前)の土器や石器、骨針・ヤスなどの骨角器が出土しています。特に昭和24・25年の調査では、この時期の土器が層位的に発掘されたことから、現在でも縄文早期の土器研究の指標となっています。写真の土器はこの調査で出土したものです。底が尖っていることから、地面に突き刺して使用したと考えられます。

縄文時代の海岸線は現在より高く、現在の利根川付近に広い内海があったことはよく知られています。発掘調査で出土した貝類は、ハマグリやカキなど海水産のものが主体であることから、城ノ台貝塚が形成された頃には、すでに近くまで海水が入り込んでいたでしょう。

縄文時代早期の貝塚は全国的にも数が少なく、鶴崎地区の鶴崎貝塚や神崎町西之城貝塚とともに、利根川下流域を代表する早期の貝塚です。